

令和2年4月6日

令和2年度港区立芝小学校学校経営方針

港区立芝小学校長

齋藤 幸之介

1 はじめに

本年度、本校は142周年を迎えることとなります。

本校は、明治12年、第一学区東京府第二中学区第三十九番公立小学校芝学校として設立されました。その後、第二次世界大戦の空襲による被害を受け、また児童数減による存続の危機もありました。しかし、本校を愛する地域の皆様、子供たちを通わせる保護者の皆様の願い、そして、在職された諸先輩方の御尽力により、本校の今があります。本当にありがたいことです。本年度は、第1学年児童数が増えて3学級となり、全学年13学級という規模になりました。また、今まで特別支援教室「芝っ子ルーム」は、他校の教員が本校に巡回する形で教室経営が行われておりましたが、本年度より単独校となり、各学級と一層緊密な連携を図りながらの教育活動が推進できることとなりました。

これに伴い、校舎内の教室配置等も変わり、そのために工事も行われる予定です。「まだまだ変わる」というのが、偽らざる思いです。

しかし、新型コロナウイルス蔓延により、学校の教育活動は例年通りに行われなくなっているのが現状です。すでに、昨年度末には16日間の臨時休校を強いられ、皆様には様々な点で御迷惑をおかけいたしました。正直に申し上げれば、本校も多方面から伝わる情報に翻弄され、自身のスタンスを見失いかけたこともあります。このようなときには、冷静になるべくしばらく時間をとり、そして、「子供たちのために」と考え直し、そしてできうる限りのことを行おうとしました。ここには、例えば、卒業式の次第を検討し、時間を短縮しながらも子供たちが新たな環境に踏み出せる決意ができるように工夫をしました。本校の教職員は、ささやかながらも卒業生の入場時には自ら演奏を行って祝おうと考えました。日がすっきりと暮れた廊下に響く「威風堂々」の音は軽やかでもあり、また同時に心に深く響くものでもありました。私共は、安全・安心を改めて確認し、同時に「校舎があり、そこに子供たちがやってきて、生活をして、初めて学校になる」ことを忘れず、できうることをしていきたいと思っています。

2 本校が描く学校像

「令和2年度港区立芝小学校学校経営方針(図)」に示しておりますが、子供たちの教育を成立させるためには、地域と保護者、そして学校が三位一体となる必要があることは周知のとおりです。この考え方を、私は過去3年間変えずにまいりました。本年度もこのことを踏まえてまいります。

(1) 地域の方々に愛してもらえる学校

本校は、地域の方々に本当に大切にさせていただいております。地域行事にはお声掛けをいただき、多くの子供たちが参加しています。夏季休業中にはラジオ体操を行っていただき子供たちの健康管理に大いに寄与していただき、祭礼では古くから伝わる地域の祭りからその歴史や人々のつながりをお教えくださり、年末年始の餅つきでは我が国の伝統行事の一端を体験させていただいております。本校の特

色ある教育活動の一つである「ハロウィンパレード」では地域の方々にお力添えを頂戴しております。昨年度は、6月に全学級が生活科・社会科の研究発表会を行いました。その際には、多くの学年が地域にある事象を教材化して授業を行うことができました。ここにも地域の方々の御理解と御協力がありました。

このように、本校の教育活動は地域の方々によって成り立っています。ここに改めまして感謝をするとともに、さらに地域の方々に深く愛していただけるよう、努力してまいりたいと思います。

(2) 保護者の方々に、子供たちを通わせてよかった、とっていただける学校

本校には、教育活動を御理解し、また教職員に御協力くださる保護者の皆様がいらっしゃいます。PTA活動はもちろんのこと、例えば、これも本校の特色の一つであります「地域学校協働本部」の取組に御協力いただき、遠足や校外学習時の引率等のお手伝いをいただいたり、玄関の装飾、絵本の読み聞かせなどを行っていただいたりしています。このことは、皆様が教育活動への御理解なくしてあり得ないことであります。諸活動に御協力をいただいたことによって学校の現状をお分かりいただき、教職員へのお励ましを頂戴することも多々ありました。私共の心に沁みる温かさを感じました。

私共は、皆様に感謝をするとともに、御期待を裏切らずに「芝小学校に子供たちを通わせてよかった」とっていただける学校を目指します。

そのためには、まず皆様と様々な情報を共有していきたい、と考えております。子供たちの学校での出来事を必要に応じてお伝えする機会が必要になることがあります。その際には、「正確」「迅速」そして「丁寧」を念頭に置き、御対応していきます。正直、場合によっては厳しい内容であったり、保護者の方々が御不快に思われることであったりする場合も想定されます。しかし、一人一人を大切することを目指す本校としましては、御子様のよりよい成長のために素直にお伝えすることが求められることがあります。誠心誠意御対応をしてみたいと思いますので、御理解を賜りたく存じます。

また、同時に私は、保護者の方々に「本校の教職員を育てていただきたい」と考えております。これは以前より申し上げていることでございます。経験を積み上げてきた教職員の使命の一つは若手教員を中心とする人材を育成することですが、しかし、実際に様々な関わりを通して学ぶことが私共の仕事の特色とも言えましょう。ですから、私共は子供たちからも多くを学びますが、同時に保護者の皆様からの御意見や御協力から多くのことを得ております。これは「甘え」ではなく、私共ができる限りのことを行った上で、さらに、とお願いをしているところでもあります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(3) 教職員が、本校の教育活動に携わることを通してやりがいを感じられる学校

昨年度、本校は2回の研究発表会を行いました。1回は、生活科・社会科の授業公開、もう1回はタブレット端末を活用した国語科の授業公開でした。これらは、もちろん子供たちのために行われたものであります。しかし、これらの研究発表会は、教職員が自ら教育課題や教科学習のあり方を模索しながら個々の授業力向上のために行われたものでした。正直、楽な取組ではありませんでした。平素の授業の積み重ねから始まり、研究発表における授業案の作成などに真剣に取り組みました。学習活動が一層円滑にかつ充実するように、学校の環境も整えました。当日の授業では、もちろん課題もありましたが、それ以上に大きな成果を上げました。様々な力を発揮した本校の教職員には子供たちのために教育活動に積極的に取り組もうとする矜持がある、と私は誇らしくなりました。

私共も常に学び続けなければならない、と思っています。そのためには、まずは学校に様々な条件が整い、教職員が教育活動に携わることを通して、自らの資質が向上していることを実感できることが必要とならましよう。私は、本校が教職員にとってもよい学び舎となるようにしたいと思っています。

幸い、私共には本校が受け継いでいる「学校文化」がいくつもあると捉えています。例えば、「きめ細やかさ」があります。これは、子供たち一人一人を、多くの教職員で丁寧に観察したり適切に対応したりすることです。在籍する教職員は、この「きめ細やかさ」を重視して子供たちに関わっています。そして、このことを踏まえながら、主体性を発揮し、積極的に教育活動に取り組んでいます。そして、私は、教職員が自ら学校経営に参画しようとする意識をもち、また様々な分掌等において協力する、組織的な取組を目指していきます。

以上のように、本校では、地域の方々、保護者の皆様、そして教職員が一体となって子供たちの教育活動を一層充実できている、と捉えています。

(4) 子供たちが、学校に来てうれしい学校

学校は、子供たちの成長を保障するための環境です。そのときに、「楽しい」ということが重要になります。楽しければ取り組む姿が一層主体的になり、子供たちが自身の成長を実感してさらに自信をもって生活することになります。何よりも、子供たちが「学習して楽しい」「考えることが楽しい」「友達と一緒にいることが楽しい」ことを実感し、これらを通して「自分は変わった」「もっと成長したい」と考えられるようにしていきたいと思えます。

後述しますが、これからの教育活動において、私共は、子供たちが「主体的」「対話的」に取り組むことを通して学びを深める、つまり「深い学び」を授業のあり様として念頭に置きながら日々実践を行っていくことを目指していくこととなります。

なお、子供たちは発達特性や適時性といった観点からすると、私共が思い描いたように変容しない場合があります。ですから、大人が、子供たちには様々な失敗があるんだ、と常に思い、これらを受け止めることが大切であると考えています。同時に、その理由はどこにあるのかを改めて見極めながら、子供たちと日々関わっていくこととなります。保護者の方々には、ときには厳しいと思われることも申し上げなければならないかと思っています。しかし、それが保護者の方々との相互理解につながり、さらには子供たち同士、保護者間の理解とこれに基づく関係が一層深まり、より一層充実した学校生活が開けると考えています。何かございましたら御相談を申し上げますので、広く受け止めていただきたく、深くお願いを申し上げます。

3 教育目標

2を踏まえ、これからおとずれるであろう変化の激しい社会を生き抜くためには、私共は学校教育を通して、子供たちに「豊かな人間性」「確かな学力」「健康・体力」という、知・徳・体をバランスよく身に付けさせることが必要です。

以下に示す本校の教育目標は、このことと合致したものとなっています。今後も子供たちの資質や能力を身に付けるために対応できる本校の教育目標を確認します。

- ・やさしい子（豊かな人間性）
- ・よく考える子（確かな学力）
- ・げんきな子（健康・体力）

本年度は、特に「よく考える子」を重点目標として取り組んでまいります。

4 教育目標を達成するために

教育目標を達成するためには、私共は、3年後を一つの目安として「中期目標」を設定します。その上で、これらを達成するために、具体的にどのような教育活動等を設定したらよいかを考えて「短期目標」を明らかにし、1年ごとに見直しを図っていきます。

これらを明確にするうえで、今年度の位置付けを明確にしておく必要があります。

今年度は、平成29年度に改訂された学習指導要領を完全に踏まえて教育活動が行われることになっています。すでに御案内の通り、学習指導要領とは、私共が教育活動を行っていく上での根拠になるものであります。子供たちが学校生活で行われる活動、特にその中心は教科等の学習活動となりますが、どれも次の三つのことを、子供たちが身に付けるべき資質・能力として位置付けることとしました。

ア「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」

イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」

ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

例えば、国語科と体育科は教科の特性が異なりますから自ずと学習の目標や内容は違ってきます。しかし、何を育てるべきかを明らかにするための観点は共通であろう、と考え、今回の学習指導要領の改訂では、全ての教科や領域について見直しました。ですから、子供たちが活動を通して学んだことを評価する際には、全て上記のア、イ、ウを観点として観ていくこととなります。

そして、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」をバランスよく育成するためには授業の改善を図っていく必要があります。私共は、

- ・学ぶことに興味や関心をもったり、見通しをもって粘り強く取り組んだりする「主体的な学び」
- ・子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先達の考え方に触れることといった「対話的な学び」
- ・学習を通して得た知識を相互に結び付けて一層深く理解したり、情報を基に自分なりの考えを形成したりする「深い学び」

を目指して活動の改善を図っていきます。

以下、教育目標に照らしての本年度の方向性を示します。

（1）やさしい子

中期目標

自分のよさを肯定的に認めて自信をもてるようにするとともに、友達のよさや痛み、喜びを認めながら互いを尊重し、進んで関わろうとする子供の育成を目指します。特に「いじめは絶対に許さない」ことを中核に据えることとします。

短期目標

・特別の教科・道徳の一層の充実

子供たちが考え・議論する活動を通して自分をみつめ、物事を多面的・多角的に考え、自分の生き方について考えられることを目指します。本年度も、道徳授業地区公開講座を中心に授業公開を行いながら、教職員の道徳についての授業力を向上させていきます。

・なかよし班活動（異学年交流）

互いを「愛おしむ」気持ちを育てるべく、児童会のなかよし班委員会の5・6年生を中心として様々な活動を行っています。昨年度、新1年生の就学時健康診断時には、5年生が案内をしながら健診のサポート役を立派に行いました。このような活動を皮切りに、例えば「なかよし班ロング集会」などを行って交流が深まるようにしていきます。

・「音楽会」「シンフォニックプラス」「ミニコンサート」

子供たちの情操を一層豊かにするために、音楽活動に力を入れていきます。今年度は2学期に音楽会を行い、平素の音楽科学習の成果を披露する予定です。また、4年生以上の有志が集って行うシンフォニックプラスは、毎日の朝練習の成果を踏まえながら地域行事等にも参加して演奏する喜びを味わえるようにします。ミニコンサートでは、希望する子供たちが様々な演奏を発表する場となっています。

・校内掲示

本校は、展覧会を行いませんが、その代わりに平素の図画工作科での成果を中心に作品の展示を積極的に行っています。今年で3年目の取組となりますが、バラエティに富んだ作品は、子供たちが相互にそのよさを認め、中には「高学年になったら絶対にやってみたい」という希望を感じる場にもなっています。もちろん、行事や社会科を中心とした学習の成果を披露する場にもなっています。これからも、各学年そして一人一人のよさを発揮する場として保障していきます。

・人権集会

12月の人権週間では、各学級で標語を作って発表し、お互いの考えのよさを学び、また具体的な目標として位置付けてその後の学校生活の改善を図りながら人権感覚を養っていきます。全校朝会時でも、教職員が多角的な検討を行いながら適切な講話を行っています。

その他、花を生けることを通しておもてなしの気持ちを育てる「花育」、子供たちが地域の一員であることを強く自覚して環境を自ら整えようとする心情を育てる「地域清掃」などを行っています。

地域の方々やPTAの方々の御尽力によって行われる「芝っ子まつり」は、子供たちの心をととても豊かにそして温かくしてくれています。

(2) よく考える子

中期目標

知識や技能を確実に習得するとともに、友達と関わりながら問題を見い出してこれを解決する活動を通して思考力や判断力、表現力を身に付け、自ら概念を獲得したりこれからの自分のあり様についての考えを広げたり深めたりすることができる子供を育成します。

短期目標

・主体性の育成—そのための課題解決活動を中心に

本校の子供たちは、概ねよく学習活動に取り組んでいます。一方で、自ら問いをもって調べたり、さらに追究を深めたり、没頭したりするといった姿が十分に見られない、と私共は見取っています。

今年度は、「主体性」をキーワードの一つとして、子供たちが自ら追究する姿を目指してできるだけ多くの学習活動を行っていきたくと考えています。また、昨今の子供たちの学習には、最後までやり遂げようとする粘り強さや失敗したり活動が滞ったりした場合にやり方を変えてみる工夫などをする姿が見られない、という課題が挙げられています。このことにも挑戦していきます。

これを解決するためには、課題解決活動が重要であると言われていています。自ら問いを見出し、見通しをもって解決に取り組み、まとめる活動を通してさらなる追究を行おうとしたり今後の自分の行動や生き方を考えようとしたりする活動です。どの教科や領域でも行おうとしていることですが、実際にはとても難しいというのが実態です。今年度の私共の実践研究でこのことを取り上げていきたくと考えています。様々な方法でその成果や課題をお示ししたいと思います。

・ICT教育

平成30年度・令和元年度には、港区教育委員会研究パイロット校の指定を受けて実践研究に取り組みました。一人1台タブレット端末が貸与され、過去2年間には国語科学習を中心にその活用を模索してきました。自分の考えをまとめること、これを友達に伝えること、友達から聞いたり説明されたことについて自分の意見を言ったり話し合ったりしたことなど、活動の充実が図られました。1年生から活用するなど、学年に見合った使い方が行えるようになってきました。すでに多くの教科や領域でも活用しています。この条件を本校の強みの一つとし、さらに有効な活用を模索しながら、子供たちの主体的な学びにもつなげていきたくと考えています。

・モジュール学習

前述した課題解決活動には例えば、失敗をした場合の保障も考慮すると、多くの時間を要します。いわゆる「読み・書き・計算」という基礎的な知識や技能を身に付けさせる活動が平素の授業では十分に確保できないという悩みがありました。そこで、週に3回、昼休み後の15分間を設定し、漢字、計算などを中心にその習得に努めています。

・算数少人数習熟度別指導（3～6年生）

教育課題の一つとして上げられる理数教育の充実の一環として行っています。各学年2学級を三つのグループに分けて学習を行います。各単元を行う前に、その前段階での学習の習熟度を調べてこれを基にしてグループ分けをし、一人一人の学びの進み具合にできるだけ即した学習が展開できるようにしています。今年度はさらに課題解決活動を意識した学習の展開が行えるようにしていきます。

・体験的な活動を始めとする多様な学習活動の設定

本校は、地域に貴重な教育材が多く、課題解決活動を行う上で価値ある学習活動を行うことができます。例えば、商店街にお世話になりながら、商品の販売や品物の管理、食品の調理、また歴史的事象などを観察したり体験したりできます。多くの方々に御協力をいただいて充実した学習活動が行えます。その他、ゲストティーチャーをお迎えして日頃体験できないことを可能にする学習活動も設定しています。

このような体験的な活動や多様な学習活動は子供たちにとってとても有効ですが、ただ経験をすれば学習が深まるわけではありません。例えば、見学前に適切なガイダンスを行って観察してくる事項を明確にしておくことが必要です。また、見学後には友達と情報交換をしながら学びを広げ、事象のもつ性質や特色、意味などを考える場面も設定していかなければなりません。さらには、例えば「これから私たちはどのように地域に関わっていったらよいのだろう」という自分自身の問題として捉えながらそのあり方を求められることもあります。

様々な点に留意しながら、多様な学習活動を効果的に進めていきます。

なお、本校が継続して行っている「国際科」については、第5・6学年が教科になることに伴ってそ

の取組み方を一層充実させていきます。今年度より「国際科発表会」はなくしますが、平素の学習活動の充実を図りながら、取り組んでいきます。

(3) げんきな子

中期目標

自分の健康や成長に関心を持ち、自ら体力の向上や健康の保持・増進に努めて生き生きと活動できる子供の育成を目指します。

短期目標

・体育科学習の充実

まず、平素の体育科学習の充実を図っていきます。子供たちが自ら健康の増進と体力の向上を目指して進んで運動に親しめるようにしていきます。そのために、体育科学習でも、前述した新しい学習に則り、運動に関する知識や技能を習得することを目指すと同時に、動き方そのものやゲームの作戦などを考える楽しさやみんなで運動する喜びを味わわせ、これからも運動したい、と思える授業が展開できるように工夫をしていきます。

・体育朝会

昨年度は、チャレンジジャンプを行いました。各学級ごとに長縄の記録に挑戦しました。休み時間を活用して練習し、体育朝会時には誰もが真剣に記録更新に臨みました。改めて、子供たちが体を動かそうとしていることが見取れました。これからは、マラソンなどでカードに記録をして自身の変容に気付かせようとする、といった工夫をしながら、体育朝会の一層の充実を図っていきます。

・食育

学級活動や高学年の家庭科学習と関連させながら、給食で設定されている「おはしの日」「かみかみデー」「おなかすっきりおそうじデー」「世界の料理」といった献立及びテーマから多様な食について学べるようにしています。

5 教育目標の達成を保障するための諸条件の整備

教育目標を達成するために、以下の諸条件を整えていきます。具体的には以下に示すことを中心に行いますが、いずれも地域の方々やPTAの皆様にお力添えをいただき、また港区教育委員会とも密接に連携をしていきながら取り組んでいきます。

(1) 地域学校協働本部（玄関装飾、モジュール学習における人材、遠足ボランティア、図書ボランティア（「ポケットの会」）など）

・地域学校協働本部とは、多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成し、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるための働きをする場です。本校では、平成28年度末に発足し、PTAの皆様のお力もお借りしながら様々な教育活動の一層の充実を図っています。

(2) 一人一人の実態に応じた支援の充実（特別支援教室、カウンセリングの一層の充実）

・子供たち一人一人がその子なりの特性を生かした教育を行うために、様々な働きかけを行っていきます。昨年度までは他校の教員が巡回指導の形で本校の教育活動の一環として行っていましたが、本年度より、教員が常駐となりました。さらにきめ細やかな働きかけができると考えています。先に述べましたように、保護者の方々と情報交換を密に行いながら、一人一人に適した教育活動が行えるようにしていきます。また、本校には2名のカウンセラーがおります。

子供たちだけでなく、保護者の方々の御相談等についても丁寧に御対応できる体制ができています。

- (3) 複数の教科を一緒に扱ったり関連をもたせたりして学習を展開すること
 - ・新しい教育の中には、単に一つの教科に止まらず、複数の教科や領域をうまく関連付けた指導を行うことが重要であると言われ、その改善が求められています。例えば、国語科で発表の仕方を学び、このことを特別活動の時間で他学年に調べたことを発表する、といった形態の学習を目指していきます。このことにより、子供たちが学んだことを様々な場面で生かせるようにしていきます。
- (4) ICT教育の一層の推進
 - ・過去2年間取り組んだタブレット端末の活用が一層円滑に進められるように、その環境等に留意していきます。
- (5) 芝小スタンダード（生活規律等の確立）
 - ・子供たちが円滑に学校生活を行えるように、学校生活の過ごし方を示しています。いくつかのきまりも示しています。
- (6) いじめ防止基本方針
 - ・「いじめは決して許さない」ことを念頭に置き、子供たち一人一人が相手の立場や考えを理解しながら良好な関係を築けるようにしていきます。一方で、いじめは起こりえる、ことも忘れず、万が一の際には迅速に対応していけるようにしています。
- (7) 複数の教員等での対応
 - ・本校では、学級担任教員、専科教員の他、多くの講師や学習支援員、介助員等が教育活動に関わっています。また、高学年を中心に、担任教員が一部の教科をもう一方のクラスでも担当する「一部教科担任制」を導入しています。複数の教員等で子供たちを見つめ、様々なよさを見出したり一層適切に対応したりしていきます。
- (8) アレルギー対応等の一層確実な推進
 - ・子供たちがおいしく楽しい給食を安全に食べられるように、子供たちの実態を把握し、保護者の方々に協力していただきながら確実に推進できるようにしています。
- (9) 幼・小中一貫教育の推進（三田アカデミー（三田中学校、赤羽小学校・幼稚園、御田小学校））
 - ・進学の際に「円滑な接続ができる」ことを目指し、三田中学校学区の中の学校や幼稚園との連携を深めています。